

ちょっと一息

ここで堺の名物チンチン電車の歴史を紹介いたします。



# チンチン電車

ゆっくりのんびりと走る堺の風物詩



堺市内大道筋を南北に走るチンチン電車（阪堺電車）は、明治44年開業以来約100年堺の市民の足として活躍してきました。



▲堺市伝統刃物会館前の「茶ちゃ」

堺市内ではほぼ専用軌道を走っています。路面電車といっても車と競合して走る区間が無いのですが、高度成長期に自動車と競合する路面電車は渋滞の元として次々と廃止されました。大阪の市電も全廃され地下鉄やバスになっていますが、近年高齢化、環境、エネルギー問題を抱える日本では路面電車を見直す動きが出ています。日本では「富山ライトレール」がLRT超低床電車を初導入したことで市民の足として見直されたのをきっかけに、地下鉄のように階段の上り下りの必要もなく、大掛かりな駅施設も必要とせずバリアフリーな交通機関としてこれからの新しい進化した交通機関として全国で新型のLRT車の導入がされています。

阪堺電車も2013年8月にLRT車の導入を開始した「堺トラム」、1号車には車体カラーを仁徳古墳や阪堺線の緑色と千利休のわびをイメージし「茶ちゃ」と命名、翌年2号車には与謝野晶子の好んだ色、堺市の市花ハナショウブをイメージし「紫おん」とさらに翌年の3号車には浜寺の海のイメージ「青らん」を運行しています。

一時廃止論も出ていた阪堺線ですが、堺市の補助も受けて一律一回210円の料金で乗車できることや、バリアフリー化の進展、阪堺線の経路を堺から恵美須町行を天王寺行への乗り換えなしで行けるようにしたことにより、乗車人数も増えてきています。日本一のアベノハルカスのある天王寺から阿倍野筋の道路拡張工事に伴う線路の移設工事も始まっています。これからも市民の足として頑張ってもらいたいです。



▲阪堺線を走るパンダ

一度のんびりとチンチン電車にゆられ、歴史ある寺院と情緒あふれる町屋や老舗のお店めぐりをされてみてはいかがでしょうか。